

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立川上小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	90.0%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	86.0%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	86.0%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、 新たな考え方に気付いたりすることができている。	84.0%	84.9%

「学校に行くのは楽しいと思う」の項目は、全国平均より高い結果が出ています。

「将来の夢や目標を持っている」の項目は、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの 時間勉強していますか。「3時間以上」	4.0%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	12.0%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	32.0%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	28.0%	27.4%
「30分より少ない」	14.0%	12.9%
「全くしない」	10.0%	5.7%

学校以外で、1日に「3時間以上」勉強している児童が全国平均の3割程度、全く家庭学習をしていない児童が全国平均の2倍いることが分かります。

(2)改善に向けての取り組み

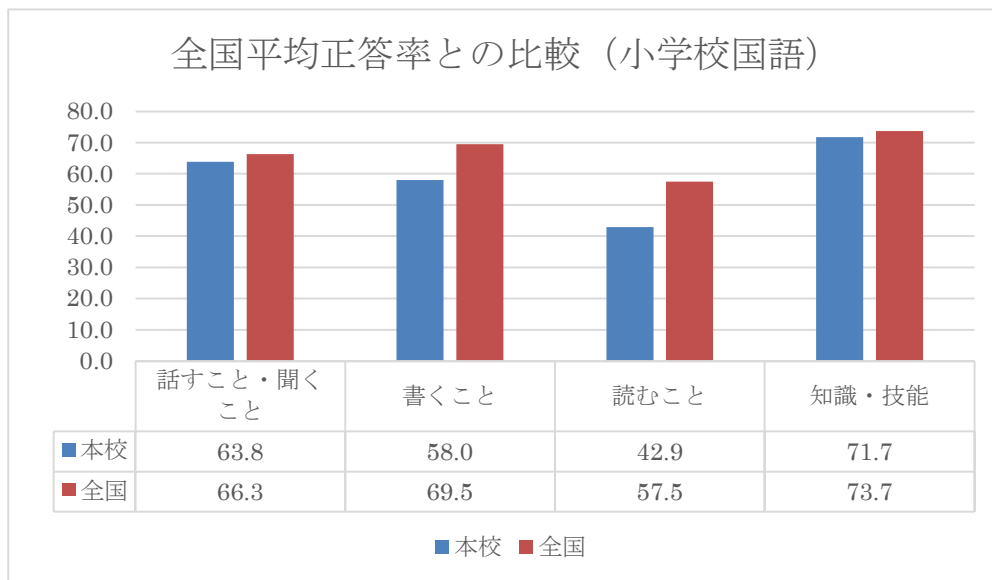
【学校では】

- 校内研究の主題「みんなが笑顔の楽しい授業」を達成するために、人権教育を通じて育てたい資質・能力の三側面に着目した授業改善を推進することで、「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるようにしていきます。
- 「自分にはよいところがある」と実感できる自己肯定感を育むため、各学級のよさや、個人のよさを見つける取組を職員全体で行います。
- 失敗は、成長につながるチャンスとして捉えています。対話を通して、互いを知り、認め合う力を育んでいきます。

【ご家庭では】

- 宿題の目的の1つは、家庭学習の習慣化です。毎日安定して学習時間を確保するにはどうすればよいか、ご家族で話をしてみましょう。
- 「川上っ子家庭学習の手引き」をご覧ください。学習時間のめやすや学習の進め方を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。

2 国 語



(1) 結 果

全ての領域で全国平均より低い結果でした。特に、「書くこと」は全国平均より 11.5 ポイント、「読むこと」は 14.6 ポイント下回りました。無解答率をみると、ほとんどの問題で全国平均よりもよい結果で、無解答率 0%の問題が多くありました。

(2) 成果と課題

無回答率が低く、どの問題に対してもあきらめずに粘り強く取り組むことができたようです。「知識・技能」の「我が国の言語文化に関する事項」の内容は全国平均より 7.9 ポイント上回りました。

顕著に目立つ課題は3点あります。1 つ目は、漢字の読み書きが定着していないということです。漢字を書けるようにするだけでは、読みと漢字表記を結び付けるだけの暗記となり、漢字のよさを感じることはできません。漢字に含まれる意味も理解し、日常的に使えることを目指します。2 つ目は、「書くこと」で、書き方の工夫を見つけたり、条件に合わせて回答を作ったりすることに課題があると考えられます。3 つ目は、「読むこと」で、説明文の要旨をとらえたり、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つけたりすることに課題が見られます。

(3) 学力向上のための取り組み

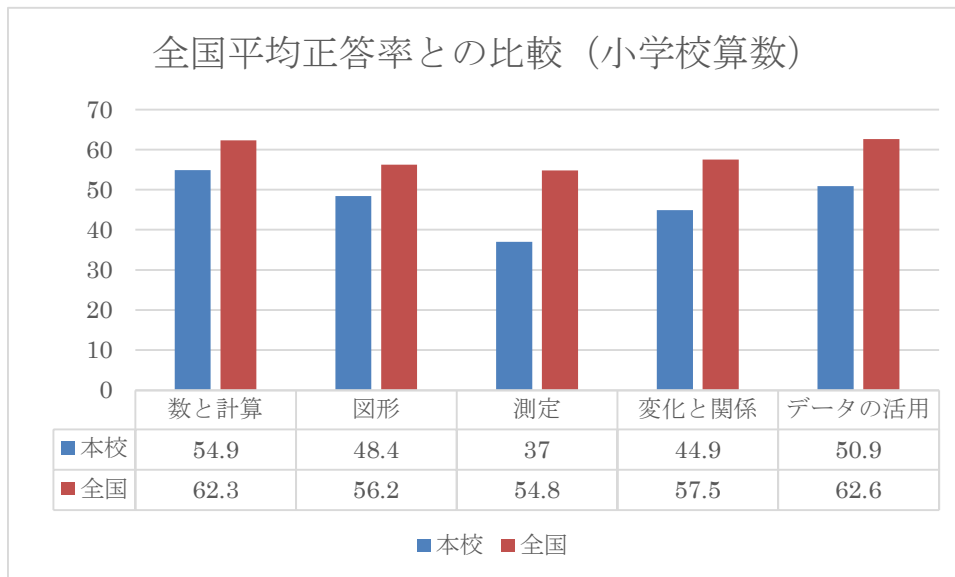
【学校では】

- 各単元でどんな力を付けるのかを明確にし、子どもたちと共有します。「順序」「原因と結果」「要約」等の学習用語の意味や便利さを理解し、実際の読みや書きに生かせるようにします。
- 漢字の学習では、「読む」「書く」だけでなく、漢字の筆順や、漢字の意味も理解できるように指導をしていきます。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることもつながります。
- 学校から出ている宿題の取り組み状況を見ていましょう。音読ではすらすら読めているか、漢字では筆順や言葉の意味も理解しているか、読み取りでは問題文を把握して解けているかなど、毎日の宿題の積み重ねが、確実に学力向上に結びつきます。

3 算数



(1) 結果

全国平均を大きく下回る結果でした。全ての領域で全国平均を7～17ポイント下回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題や、異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかの正答率が全国平均を上回っていました。はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題や、平行四辺形の性質を基にコンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる問題では、正答率が全国平均を14ポイント以上、下回っていました。

今後、数直線の意味や目盛りの読み方、それを応用する力、図形の観察や操作活動などを通して、図形の意味や性質を考えることができるようにすることが重要です。また、算数用語や公式など覚えなければならないことを繰り返し取り上げ、その定着をはかる必要があります。

(3) 学力向上のための取り組み

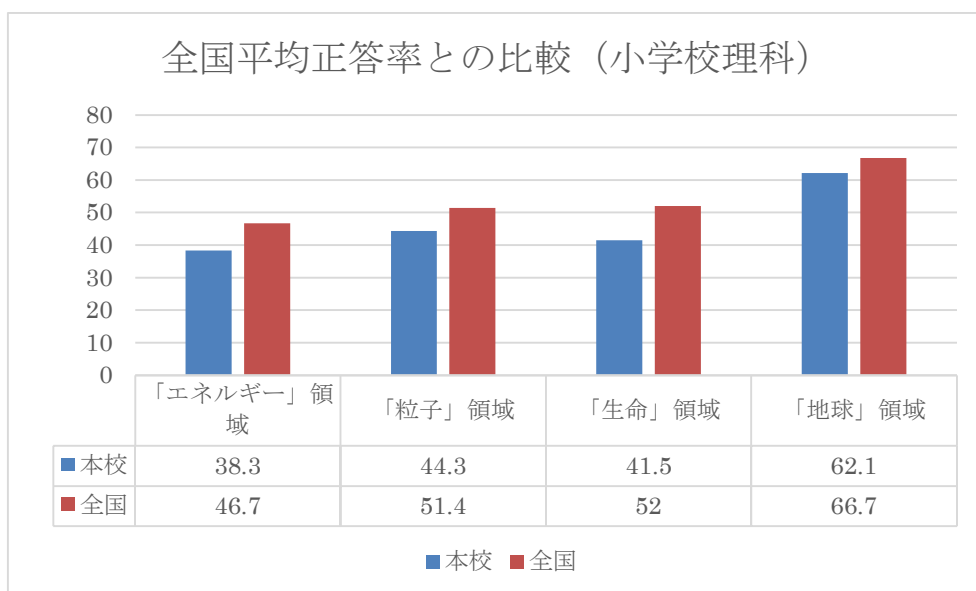
【学校では】

- 問題解決のために必要な数字やキーワード、何が問われているかの部分に印をつけ、問題の意味をしっかりと確認して、問題を解く習慣をつけさせます。
- 交流活動や話し合い活動を取り入れて、多様な考えに触れる機会を増やし、主体的・対話的に問題を解決する力の向上をはかります。また、答えの根拠を明確にし、筋道立てて説明ができる力をつけるための練習を繰り返し行います。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。また、家庭学習の習慣を定着させるために、「ながら学習をやめる」「学習する場所を決める」など集中して取り組める環境作りのためにご協力をお願いします。
- 算数が好きになるには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな」という経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。

4 理科



(1) 結果

すべての領域で全国平均を下回っています。無解答率は、約6割の問題で全国平均より低い結果となっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、まとめを述べるために調べる必要があることについて書く問題や、知識と関連付け適切に説明しているものを選ぶ問題の正答率が、全国平均正答率を上回っていました。電気の回路の正しい作り方を選ぶ問題や、温度によって水の状態が変化することを選ぶ問題は全国正答率を17ポイント下回っていました。また、実験の結果から気付いたことを基に、見出した問題について記述する問題が全国平均正答率を下回るなど、「記述式」の問題でも課題が見られました。

日々の授業で習得した知識を自分の言葉で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、学習した内容を確認させていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に自分の言葉で書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 「習ったことが生活の中で使えて便利だな。おもしろいな」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。